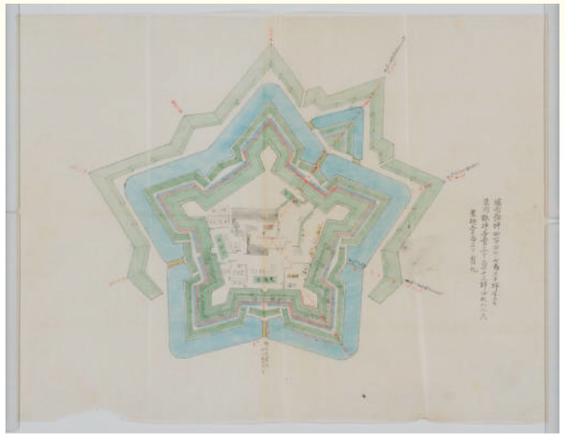
Ⅳ 終幕～五稜郭の戦い～

江戸を脱出した榎本武揚ら旧幕府艦隊は 10月 25 日に箱館を占領しますが、新政府軍による箱館総攻撃によって明治２年（1869）5月18 日に旧幕府軍は降伏、戊辰戦争は終わりを迎えました。



『函館五稜郭開拓使ヨリ請取方伺』
（公 00767100）

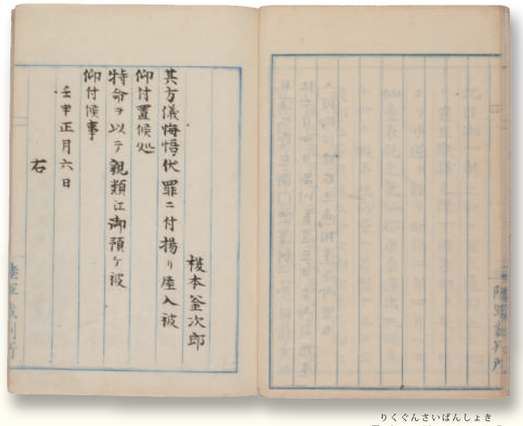
函館五稜郭の図

明治６年（1873）11 月、陸軍省が兵営・火薬庫等の建設のため、開拓使に函館五稜郭の引渡しを求めた際の文書です。建物や堀の寸法が詳細に書き込まれています。本資料は「公文録」に含まれています。なお、箱館の名称は明治 2 年 9 月末に開拓使出張所が設置されて以降、「函館」が用いられています。

※ 6月16 日（土）以降はパネル展示。

榎本武揚に対する糺問

戊辰戦争時、榎本武揚は新政府軍への旧幕府軍艦引渡しを拒み、江戸湾から軍艦で北上、函館五稜郭で抗戦しました。「陸軍裁判所記」は明治５年（1872）、五稜郭の戦いに敗れ降伏した榎本武揚らに対する糺問（罪の問い正し）の記録で、画像は榎本に対する判決書です。



『陸軍裁判所記』
（165-0111）

ギャラリー・トークのお知らせ

企画展の見どころを企画者が解説します。

5 月 30 日（水）午後 2 時～
6 月 27 日（水）午後 2 時～

※所要時間 30 分程度　※事前申込不要
※1 階展示場へお集まりください。

公式HP: http://www.archives.go.jp　@JPNatArchives　@JPNatArchives

戊辰戦争 菊と葵の 500日

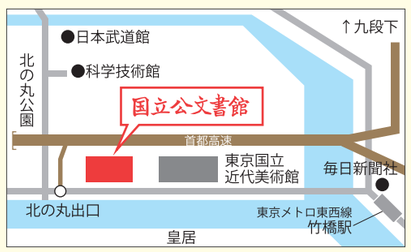
2018 年 5 月発行

©2018　独立行政法人国立公文書館

〒102-0091　東京都千代田区北の丸公園 3 番 2 号
TEL 03-3214-0621（代表）

本紙を無許可で複写・複製することは、
著作権法上での例外を除き、禁じられています。

独立行政法人
国立公文書館
NATIONAL ARCHIVES OF JAPAN



アクセス　地下鉄東西線竹橋駅下車 [1b出口] 徒歩５分

平成 30 年度 第１回企画展

明治150年

戊辰戦争

菊と葵の500日

入場無料

平成 30 年
5月26日（土）
▼
6月30日（土）

開催時間
月～土曜日
午前９時15分～午後５時
※日曜日は休止

独立行政法人
国立公文書館
NATIONAL ARCHIVES OF JAPAN

戊辰戦争

菊と葵の500日

平成30年度第1回企画展

概要

戊辰戦争は、慶応４年（1868）正月の鳥羽・伏見の戦いに始まり、翌明治２年（1869）５月の五稜郭の戦いが終結するまでの、一連の戦闘をいいます。

王政復古によって誕生した新政府軍と、旧幕府軍との間で 500 日以上にわたり、各地で様々な戦いが展開されました。

本展では当館所蔵資料から、日本各地で行われた様々な戦闘の記録や、戦争に参加した人々に関する資料をご紹介し、戊辰戦争の実像に迫ります。

～主な展示資料～

Ⅰ 開戦～鳥羽・伏見の戦い～

慶応４年正月３日、薩長を中心とする新政府軍、徳川慶喜率いる旧幕府軍は京都南郊の鳥羽・伏見で衝突しました。新政府軍は圧倒的な兵力の旧幕府軍を新型の兵器で破り、敗れた慶喜は海路で江戸へ逃亡します。

『戊辰所用錦旗及軍旗真図』（附 A00294100）　重要文化財

錦旗の図

戊辰戦争の際、新政府軍が用いた錦旗及び軍旗の精密な模写図です。

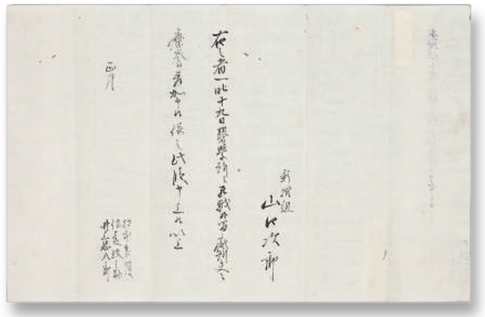
戊辰戦争では各種の錦旗や軍旗が新政府軍に与えられました。本資料の含まれる「公文附属の図」は、明治政府で授受した公文書を年別・各省庁別に編集した「公文録」に附属するものです。

「公文録」「公文附属の図」は平成10年、国の重要文化財に指定されました。

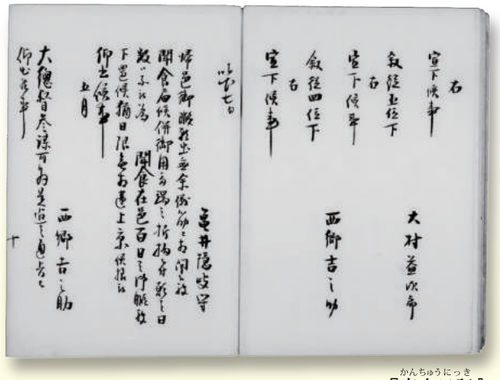
※６月16日（土）は以降は展示箇所を変更。

新選組山口次郎の負傷

本資料は、鳥羽・伏見の戦いで敗れ、負傷して江戸に戻った新撰組隊士の山口次郎（斎藤一。後に藤田五郎）が医学所で頭取を務めていた松本良順の治療を受けたことを示す文書です。



『新撰組手負之者山口次郎医学所江罷越候儀ニ付申上候書付』（多 037248）



『官中日記』（誌 00002100）

Ⅱ 江戸・関東への転戦

２月、新政府軍は江戸攻撃を３月15日として東海道、東山道から進軍しました。3月13～14日の西郷隆盛と勝海舟の会見を経て、４月11日、江戸城は無血開城しました。

西郷隆盛を大総督参謀に任ず

岩倉具視や大久保利通らとともに王政復古の中心人物となった西郷隆盛は、鳥羽・伏見の戦いの後、新政府軍の大総督参謀となりました。本資料は、西郷が参謀に任命された際の記録です。西郷は江戸開城の際、参謀として旧幕府陸軍総裁の勝海舟との会談にのぞみました。

『海舟日記抄』（165-0041）

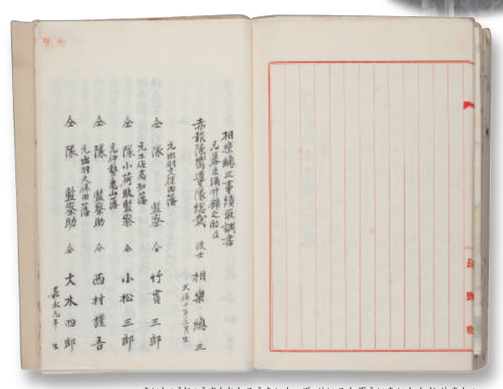
勝海舟と西郷隆盛の会見

慶応４年（1868）３月、江戸開城をめぐって、新政府軍参謀の西郷隆盛と行った会談について記された、「勝海舟日記」の抄録です。西郷と勝は、江戸城明け渡しや徳川慶喜に対する処分について話し合いました。この会談によって新政府軍は江戸城総攻撃を中止し、翌４月のいわゆる無血開城を迎えます。

相楽総三への贈位

幕末期の浪士・相楽総三は本名を小島四郎左衛門といい、下総の郷士の子として江戸で生まれました。平田国学を学んだのち尊王攘夷運動に参加し、水戸天狗党の筑波山挙兵などにかかわり、慶応３年（1867）10月の薩摩藩邸焼打ち事件では浪士隊を結成して、江戸攪乱工作を行います。

慶応４年正月、西郷隆盛らの命で赤報隊を組織し、年貢半減令を宣伝して東山道を進軍しましたが、政府が半減令を取り消したため偽官軍とみなされ、処刑されます。本資料は大正 13 年（1924）、相楽らの名誉回復のため遺族有志が申請した、赤報隊士への贈位に関する文書です。



『大正十三年皇太子御成婚贈位内申事蹟書』（贈位 00098100）

『若松城写真 天守東南面之図』（附 A00015100）　重要文化財

会津藩主 松平容保への詔勅

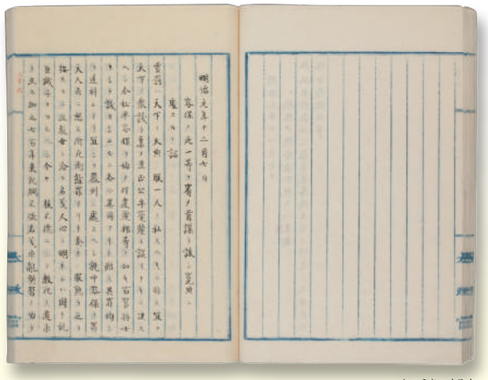
京都守護職に任命され、新撰組などを指揮して京都の治安維持に努めた松平容保は、鳥羽・伏見の戦いに敗れた後、官位を剥奪されました。その後、奥羽越列藩同盟を結んで各地で戦いましたが敗れ、明治元年（1868）９月に若松城を開き、降伏します。本資料は明治元年 12 月、容保を鳥取藩預かりとした寛典（寛大な処分）の詔勅です。

Ⅲ 東北・北越戦線へ

閏４月頃より、奥羽越列藩同盟と新政府軍の間に戦闘が始まります。東北各地での戦闘を経て、９月に同盟側の会津、庄内、盛岡の各藩が降伏、新政府軍が勝利しました。

会津若松城の写真

会津若松城は戊辰戦争で新政府軍の砲撃にさらされ、その後、修復もされずに雨ざらしになっていました。明治６年（1873）12 月、若松県（現在の福島県北部）権令の沢簡徳は、右大臣岩倉具視に若松城を撤去し、後日改築することを建白しました。この写真は、その際に現状を知らせるために提出された６枚のうちの１枚で、「公文附属の図」に含まれるものです。



『詔勅録』（単 00159100）